

## 一 如にょじゅう從け飢こく国らい來ぜん 忽こつ遇く大王膳ぜんの事

仰せに云はく、此の文は中根の四大声聞法華に來たる事、譬へばうへたる国より來たりて、大王のそなへに値あふが如くの歡喜なりと云へり。然れば此の文の如くならば法華已前けこくの人は餓鬼界の衆生なり。既に飢國來と説けり。大王膳だいごみとは醍醐味なり。中根の聲聞法華に來たりて一乘醍醐の法味を得て、忽たちまちこつに法王の位にぜんに備はりたり。忽の字は爾前にぜんの迂迴道うえどうの機そくしつとんじょうに対して忽と云ふなり。速疾頓成たえげゆうの義たえを忽と云ふなり。仮令げゆうば外用の八相を唱ふる事は所化をして仏道まいに進らしめんが為なり。所詮末法に入りては謗法の人々は餓鬼界の衆生なり。此の經に値ひ奉り、南無妙法蓮華經に値ひ奉る事はしかしなが併しら大王膳ぜんたり。忽遇こつの遇の字肝要なり。釈に云はく「成仏の難きには非ず、此の經に値ふをかたしとす」と云へり。不輕品には「復遇ぶくじょう常不輕ふきょう」と説けり。蔽王品には「生ごんのう値しょうち仏法」と説けり。大王膳に値ひたり。最も以て南無妙法蓮華經を信受し奉るべきなり。此の經文の如くならば、法華經より外いかの一切衆生は、何に高貴の人なりとも餓鬼道の衆生なり。十羅刹女らせつどもは餓鬼界の羅刹なれ共、法華經を受持し奉る故に、餓鬼に即する一念三千なり。法華へ來たらずんば何れも餓鬼飢饉いずききんの苦しみなるべし。所詮必ず中根の聲聞領解の言に、我が身を餓鬼に類する事は、餓鬼は法界じきに食ありと云へども、食する事を得ざるなり。諸法実相の一味の醍醐の妙法有れ共、終つひに開覺あたに能はざる間、四十余年食にうへたり。一義に云はく、序品・方便より諸法実相の甘露かんろ頭はれて、南無妙法蓮華經有れ共、広略二重の譬説段まで悟らざれば、餓鬼の満々と有る食事を食くらはざるが如し。所詮日本国の一切衆生は餓鬼界の衆生なり。大王膳いわゆるとは所謂南無妙法蓮華經是なり。遇の字には人法を納めたり。仍にょつて末けしゅきょうじきに如飢須教食いと云へり。うへたれ共、大王の教を待ちて醍醐を食するが如しと云へり。今南無妙法蓮華經有れ共、今身より仏身に至るまでの受持を受けずんば、成仏は有るべからざるなり。教とは爾前無得道、法華成仏の事なり。此の教を受けずして法華經どくじゆを讀誦すとも、大王の位にのぼる事有るべからざるなり。醍醐は題目の五字なり云云。